初　診　の　方

初めての方はご予約の必要はありません。どうぞ、ご心配なくお越しください。
ただし、下記の外来は完全予約制です。ご予約をお願いいたします。

● 完全予約制

心療内科　TEL096-320-6508（直通）
女性専用外来　TEL096-320-6600（予約）
※WEBからもご予約できます。
ストーマ外来　ストーマ外来　TEL096-320-6500（代）
緩和ケア外来　緩和ケア外来　TEL096-320-6500（代）

● セカンドオピニオンをご希望の方

TEL096−320-6500（代）

WEB予約 →

【 病 院 概 要 】

■ **標榜科目**
肛門内科、肛門外科、内科、消化器内科、外科、消化器外科、大腸・肛門リハビリテーション科、心療内科、泌尿器科、麻酔科

■ **住所**
〒862-0971
熊本市中央区大江3丁目2番55号

■ **代表電話番号** TEL.096-320-6500

■ **代表FAX番号** FAX.096-320-6555

■ **駐車場台数**　150台（有料駐車場）

■ **ホームページ** http://www.takano-hospital.jp/

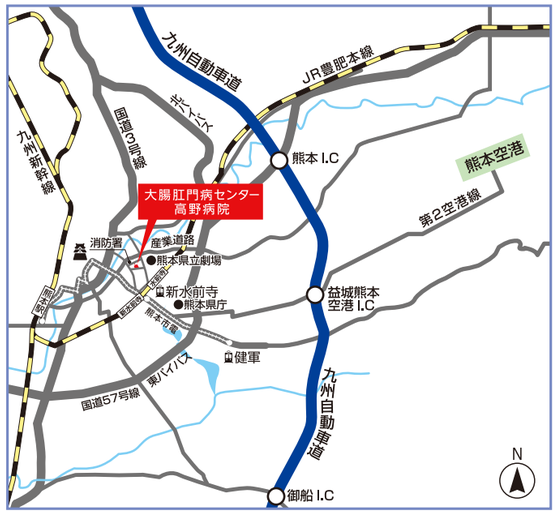
■ **交通のご案内**

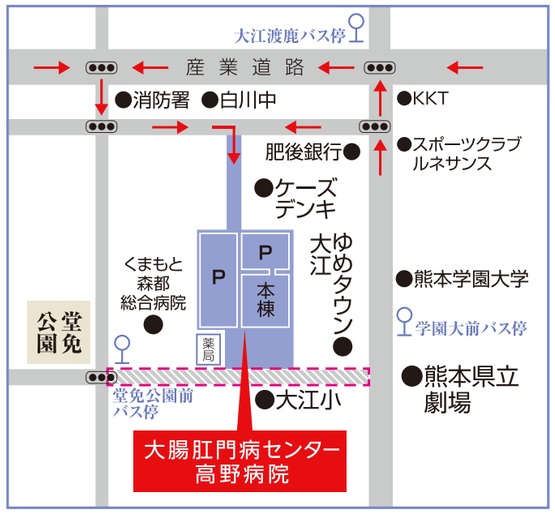
【バス（熊本都市バス）をご利用の方】
・大江渡鹿下車……7分
・県立劇場前下車……3分
【高速道路をご利用の方】
・熊本インターチェンジより5.5km……15分
【JRをご利用の方】
・熊本駅よりタクシーで……20分
・水前寺駅よりタクシーで……3分

■ **診療受付時間**
月曜日〜金曜日　8:30〜11:30／13:30〜16:30
（泌尿器科のみ月･火･水･金曜日　8:30〜11:30）
土曜日　8:30〜11:30
日曜･祝日　8:30〜11:30
（肛門外科･肛門内科･消化器外科のみ）

熊本県指定がん診療連携拠点病院

（財）日本医療機能評価機構認定病院





7:30〜8:30（スクールゾーンのため車･バイク進入禁止）

社会医療法人社団高野会

大腸肛門病センター高野病院

COLOPROCTOLOGY CENTER TAKANO HOSPITAL

高野病院　検索

Hospital Information

総　合　案　内

Hospital Information

医療の質を高め、さらなる診療の拡大へ

社会医療法人社団高野会

大腸肛門病センター高野病院

COLOPROCTOLOGY CENTER TAKANO HOSPITAL

大腸肛門病センター高野病院は、

開院35年の想いを帯山の地から大江に移し

35年間で培った専門性を新たな器に込め

急性期･専門病院として常に根拠に基づいた

最新の医療を提供し医療法人として地域に貢献すべく

さらなる高みを目指します。

私たちは常に5Sを大切にします。

《 私たちが目指す高野病院 》

SMILE	笑顔	私たちは社会医療法人の公益性を自覚し、奉仕の精神で大腸肛門及びその関連分野を通し社会に貢献します。
SERVICE	奉仕の心	私たちは患者中心の医療を旨とし、高度の専門的レベルをもって診療に臨みます。
STUDY	自己研鑽	私たちは地域住民の健康で豊かな生活を支援するため、積極的に検診（健診）活動、啓発活動を実践します。
SPECIALITY	専門性	私たちは医療の質の向上のために、自己研鑽と後進の育成に努めます。
SAFETY	安全	私たちは事故防止に努め、安全な医療と環境を提供します。

《当院が目指す「急性期･専門病院」の在り方》

急性期･専門病院

- **急性期･診療部**
  - がん診療連携拠点病院（医療連携）
  - 電子カルテシステム（医療情報管理）
  - 病院機能評価（病院機能向上）
  - DPCシステム（急性期病院体制）
- **専門性･診療部**
  - がん診療センター（予防～緩和体制･特殊がん診療体制）
  - IBDセンター（指定難病診療･研究）
  - 大腸肛門機能診療センター（集学的先端診療･研究）
  - 内視鏡センター（最先端診断･治療）
  - 大腸肛門病センター（啓発･地域連携）
  - 医療情報センター（臨床研究･広報）
- **事務部**
  - 社会医療法人（地域医療貢献）
  - 目標管理システム（人事･教育制度）
  - 雇用･給与制度（生涯貢献型職員）

会長あいさつ

35年間で培った新たな歴史

Smile（笑顔）、Service（奉仕の心）、Study（自己研鑽）、Speciality（専門性）、Safety（安全性）──。
この5つの「S」を大切にしながら、
大腸肛門の専門病院として成長してきた高野病院は、
2017年、35周年を迎えました。
その記念すべき年、熊本市大江の地に新病院を開院。新たなる歴史が始まります。

ごあいさつ

高野病院は1982年1月4日、日本で唯一の大腸肛門病に特化した病院として、ここ熊本の地で開院しました。当時、大腸肛門の病気は医学・医療の面で軽んじられていましたが、そこに当時の欧米の状況と東京での疾患の欧米化の兆しを感じ取り、大腸肛門の専門病院を設立することを決心しました。現在166床となり、高い医療知識と技術を持った331人の職員が、日々精励しています。

当院は今年で35周年を迎えましたが、その間、患者さん第一の病院として上記の5つのSをモットーに掲げ、患者さんのさまざまなニーズに応じて新しい分野を増やし、全国でもトップクラスの大腸肛門病に対する治療を実践してまいりました。

今回35周年という節目に、大腸肛門の予防・診断・治療・フォローアップを具現するために4つのセンターを備えた新病院を開院することになりました。今後もこれら4つのセンターを4本柱として、全員が一致団結して医学的にも、医療的にも、また患者さんの満足の点でも最高の専門施設をつくり、地域のあらゆる医療施設と協力して発展したい所存です。

以上の点を皆さんの目でご確認いただき、何なりとご指摘、ご指導をいただければ望外の幸いです。

社会医療法人社団高野会　会長　**高野正博**

理事長・院長あいさつ

医療実績に基づきのスタートへ

ごあいさつ

私たちは、大腸肛門病の専門病院として日々の診療活動の成果を臨床研究として学会・論文などで発表することにより、国際的かつ学術的にも貢献してきました。そして、患者さんへ根拠に基づいた最先端の医療の提供を行ってまいりました。

ひと口に大腸肛門の病気といっても、その中身は多岐にわたります。私たちは、医療の質を高め、社会医療法人として、また、熊本県指定がん診療連携拠点病院として社会的責務を果たしながら充実した診療体制を整えてまいりました。

開院以来掲げてきた大腸がんの撲滅はもちろんのこと、痔などの良性疾患、潰瘍性大腸炎やクローン病といった指定難病疾患、便秘や便失禁など機能性疾患のほか、あらゆる病気に対応しながら、患者さんの目線で、そのニーズを探り、科の機能を広げてシステム化し、このたび新病院の開院とともに4つのセンターに結実させ、さらに緩和ケア病棟を新設いたしました。これを機にさらなる高度なチーム医療を実践していく所存です。

新病院は、今までの当院の診療の蓄積を反映させ、ハード、ソフト両方において、他には類を見ない、きめ細かな創意工夫がなされています。ここでさらに実力を伸ばしていくことを病院職員一同が心に刻み、大腸肛門分野の診療と研究で日本、世界をリードする存在となりたいと思います。

社会医療法人社団高野会
大腸肛門病センター高野病院　理事長・院長　**山田一隆**

がん診療センター

予防から診断、治療、そして緩和ケアまで切れ目のない
がん診療を行う日本で初めてのがんセンターを目指します。

大腸肛門機能診療センター

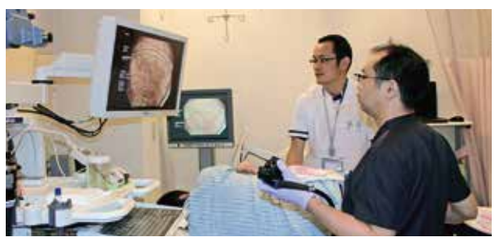
専門家チームで大腸肛門部における機能性疾患に対する
高度な診断・治療を行います。

炎症性腸疾患（IBD）センター

難病である炎症性腸疾患（IBD）の患者さんに先進的診療を提供
しながら心身ともに支え、寄り添うチーム医療を展開します。

内視鏡センター

高度な内視鏡技術により安全で
正確な診断と治療を内視鏡チームが行います。



消化器外科　肛門科　外科　大腸･肛門機能科

会　長
高野　正博
大腸肛門機能科
日本大腸肛門病学会名誉会員
日本大腸肛門病学会九州支部名誉支部長
日本消化器病学会専門医
日本病院会名誉会員

理事長　院長
山田　一隆
消化器外科
日本外科学会指導医・専門医・認定医
日本消化器外科学会指導医・専門医・認定医
日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医
日本がん治療認定医機構暫定教育医
日本がん治療認定指導医
日本消化管学会胃腸科指導医・専門医
消化器がん外科治療認定医

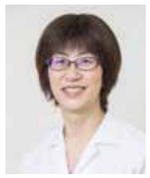
副院長
辻　順行
肛門科
日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医
日本外科学会専門医

副院長　診療部長
大腸肛門機能診療センター長
大腸肛門機能科部長　肛門科部長
高野　正太
肛門科、大腸肛門機能科
日本大腸肛門病学会評議員・専門医
日本外科学会会員

外科部長
岩本　一亜
消化器外科
日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構暫定教育医
ストーマ認定士

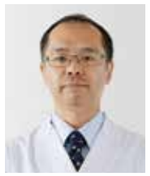
がん診療センター長
地域医療連携部長　消化器外科部長
佐伯　泰愼
消化器外科
日本大腸肛門病学会指導医・専門医
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構認定医
がん医療ネットワークナビゲーター指導責任者

医　長
久野　三朗
肛門科
日本大腸肛門病学会指導医・専門医
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会認定医
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
日本麻酔学会認定標榜医



医　長
福永　光子
消化器外科
日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医
日本外科学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構認定医

医長･医局長
田中　正文
消化器外科
日本大腸肛門病学会評議員・専門医
日本大腸肛門病学会指導医
日本外科学会　指導医
日本外科学会　専門医
日本がん治療認定医機構認定医
インフェクションコントロールドクター



医長　内視鏡センター長
中村　寧
肛門科
日本大腸肛門病学会指導医・専門医
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本がん治療認定医機構暫定教育医

医　長
深見　賢作
肛門科
日本外科学会専門医
日本大腸肛門病学会会員
日本消化器外科学会会員

医　長
野口　忠昭
消化器外科
日本大腸肛門病学会専門医
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
インフェクションコントロールドクター

桑原　大作
肛門科
日本大腸肛門病学会会員
日本外科学会会員
日本消化器内視鏡学会会員

消化器内科　内科　（総合健診センター）

副院長　炎症性腸疾患(IBD)センター長
野﨑　良一
消化器内科
日本大腸肛門病学会指導医・専門医
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
日本消化器がん検診学会指導医・認定医
日本カプセル内視鏡学会指導医・認定医
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化管学会胃腸科専門医

総合健診センター所長
松﨑　秀幸
総合健診センター
日本内科学会認定医
日本人間ドック学会認定医
日本総合健診医学会指導医

医　長
村岡　正武
消化器内科
日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本大腸肛門病学会会員（申請中）
日本消化器内視鏡学会会員

守安　真佐也
総合健診センター
日本消化器外科学会認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器がん検診学会認定医
日本人間ドック学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
乳がん超音波検診認定医
日本消化管学会暫定胃腸科指導医・専門医
日本消化管学会胃腸科認定医

泌尿器科

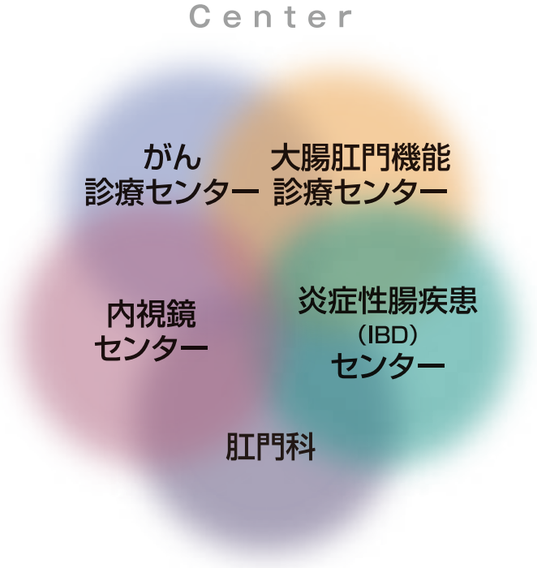
泌尿器科部長
高野　信一
泌尿器科
日本泌尿器科学会認定医

心療内科

心療内科部長
小林　伸行
心療内科
心療内科専門医
日本心身医学会指導医
日本内科学会総合内科専門医

安全で良質かつ高度な医療の提供を目指し「がん診療センター」「大腸肛門機能診療センター」「内視鏡センター」「炎症性腸疾患（IBD)センター」「肛門科」として発展します。

当院は、下部消化管の要である肛門科からスタートして以来、肛門の診療を通じて、
そことつながる大腸のあらゆる病気に対処し、
患者さんの診療に必要不可欠な関連診療科や部署を充実させてきました。
その蓄積をもとに、新病院開設を機に結実したのが、4つのセンターと肛門科という新体制です。
この体制は、個々の患者さんへの診療で、各センターが有機的に連携し、
医師だけではなくあらゆるスタッフが適材適所で力を発揮していきます。
そして、患者さんに対してさらに高度な医療の提供を実現できると考えています。
大腸肛門病センター高野病院の新体制にぜひ注目してください。



医療に関する相談から
がんの早期発見・早期治療・社会復帰までを目指します。
各センター・診療科が連携し、
一人の患者さんをあらゆる視点から把握します。
センター化により、安全で良質かつ、より患者さん中心の医療を実現します。

最先端の直腸肛門機能検査に基づき排便障害チームが高度な集学的治療を提供

2005年、日本で初めて創設された大腸肛門機能科をグレードアップした
大腸肛門機能診療センター。
新病院は、排便障害チームが一堂に会する機能検査室の設置で、
より高度な集学的治療が可能になりました。

大腸肛門機能診療センター長　副院長
高野 正太

「大腸肛門機能診療センター」とは…

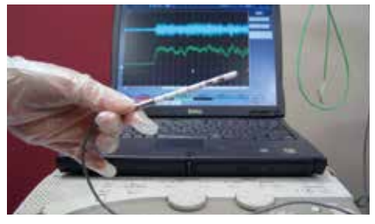
大腸肛門の「働き」を専門に診る集団です。
機能障害に対する検査、診断、治療、フォローアップの集学的治療を実践しています。
排便障害健康講座の開催など、市民への啓発活動にも注力しています。

チームによる医療の充実

診療センター内にコンチネンスリーダーと呼ばれる排泄ケアを専門とする看護師を配置するなど、チームによる生活指導や治療コーディネートをより充実させます。

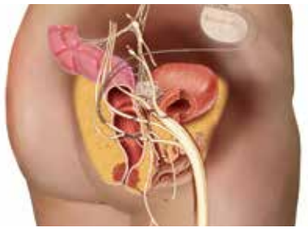
最新・最先端の機能検査

直腸や肛門の働きと形状を最先端機器で検査して、最適な治療法を選択します。筋電図検査による簡易筋電図法を確立するなど、全国トップレベルの検査体制を誇っています。



新電気治療の実践

腰に装置を埋め込み、神経を根元から刺激して締める力を強化する仙骨神経刺激療法（SNM）をはじめとした先駆的な電気治療が特色の一つです。有効症例も増えています。



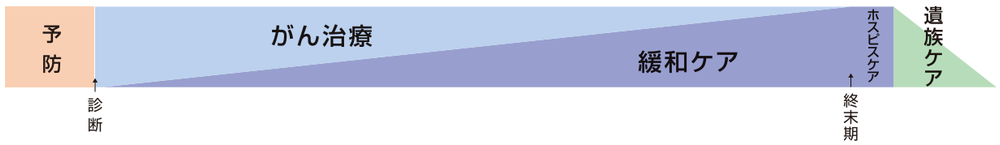
検診から終末期のケアまで
切れ目のないがんチーム医療

大腸がん撲滅のための検診による早期発見、そして、正確で安全な診断技術、
根治性と機能温存による患者さんの生活の質を考慮した最新の治療技術。人間性を重視した緩和ケア。
これらをプロフェッショナルなチーム医療により切れ目なく実践するのが、
当院の目指すがん診療センターです。
がん医療のトップランナーを目指し、新病院にてさらに成長します。

がん診療センター長
佐伯 泰愼

「がん診療センター」とは…

検診によるがんの予防から、がんの早期発見、診断、治療、
そして心と身体の痛みを軽減する緩和ケアまで、
切れ目なく個々の患者さんの病状に応じて、チームで支えるがんの総合医療を提供します。



徹底した検診による予防

便潜血検査と大腸内視鏡検査を組み合わせた大腸がん検診を実施しています。科学的根拠に基づいた郵送による便潜血検査も実施し大腸がんの撲滅を目指します。

最新鋭の技術と経験による診断

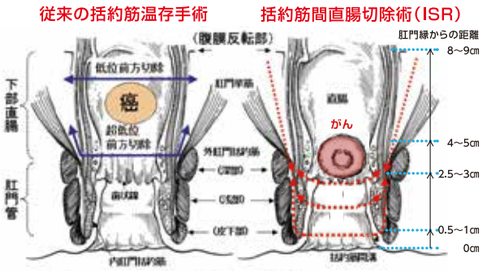
内視鏡挿入が困難な場合は大腸精査としてCTC（大腸CT検査）を行っています。国内では国立がん研究センターに次いで始めました。手術支援画像にも応用しています。

高い技術を駆使した治療

大腸がんをはじめとする初発消化器がんのみではなく、再発大腸がん（肝転移や局所再発等）の難しい手術も積極的に行っています。

根治性と機能温存を両立する外科治療

全国有数の高度な大腸がん手術を行っています。内視鏡で治療できないあらゆる大腸がんの手術を担っています。特筆すべきは、全国で2番目に実施しているISR（括約筋間直腸切除術）という肛門を温存する難易度の高い手術です。大腸肛門機能診療センターとの連携で根治性と機能温存を実現しています。



患者さんに寄り添う緩和ケア

緩和ケアは、がんの終末期に受けるものではなく、がん診断時から患者さんとご家族の心と身体の苦痛を和らげ、自分らしい生活を送れるようにするケアのことです。

ホスピス機能を有する急性期緩和ケア病棟

現在のがん医療における緩和ケアは、終末期のみではなく、がんと診断され、告知された時点から行われる医療です。患者さんとご家族にチームで寄り添います。当院の緩和ケア病棟は、終末期に限らず、がん治療中の副作用等さまざまな症状緩和のためにも利用できる病棟です。

学術面でも日本のトップランナー

日本外科学会宿題報告『直腸癌に対するISRの有用性』では、ISR後の機能検査・治療ガイドライン作成という大役を担い、大腸癌研究会プロジェクトでも『肛門管癌の病態解明とStagingに関する研究』と題して、わが国における肛門管がん手術の標準化を目指す研究を担うという学術面におけるトップランナーです。

炎症性腸疾患治療は全国有数 チームが一丸となってサポート

クローン病や潰瘍性大腸炎など原因不明の消化管難病への対処は重要な問題です。
炎症性腸疾患（IBD）センターは、これらの病気に対して経験豊富な専門医が、
最新の治療法を行い、チーム全体で一人ひとりの患者さんを支え、早期診断、
治療、社会復帰への支援体制、医療連携による患者さんのフォローアップに取り組んでいます。

炎症性腸疾患（IBD）センター長　副院長
野﨑 良一

「炎症性腸疾患（IBD）センター」とは…

難病である炎症性腸疾患（IBD）について、全国有数の症例数を誇ります。
IBDおよび、それに伴って現れる病気も各科各部署がチームとなって治療にあたり、
患者さんに寄り添う医療を実践します。

チーム医療

主治医だけではなく、難治症例は消化器外科での手術、肛門の病気は肛門科など他科と連携します。そしてさまざまな医療スタッフが協力して患者さんを支えていきます。

患者さんの人生に寄り添う

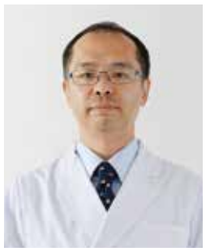
IBDは根治が難しく一生付き合っていかなくてはなりません。私たちは患者さんが日常生活を安心して前向きに送れるよう、人生に寄り添い見守り続けます。

専門的な治療を実施

血球成分除去療法（CAP療法）という体外循環療法を経験豊富なスタッフが担当します。レミケードなど生物学的製剤による治療は土曜にも実施しています。

新病院移転を機に大腸内視鏡検査体制を整え 国内有数の内視鏡センターに生まれ変わりました

内視鏡治療総数は2581例（2015年実績）で、
全国2位（『手術数でわかるいい病院2017』〈朝日新聞出版〉より）を誇る内視鏡センター。
全国トップレベルの医師が安全で、かつ精度の高い検査、治療を行います。
新病院の内視鏡室は、約700㎡と全国でも有数、九州では一番広い検査室です。
来院から前処置、検査、安静、結果の説明までワンフロアで行います。



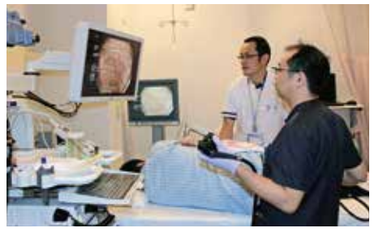
内視鏡センター長
中村　寧

「内視鏡センター」とは…

日本消化器内視鏡学会指導医3人、専門医9人、消化器内視鏡技師18人が在籍し「体にやさしい内視鏡治療」をモットーに、
日夜、消化管の内視鏡検査、治療に従事し、他のセンターとの連携のもと、
大腸肛門を中心に消化管疾患に対応しています。

未然にがんを防ぐ

がんになる可能性のある、前がん状態のポリープを切除する治療数では全国有数です。小さなポリープは入院を必要とせず検査時に治療まで行います。

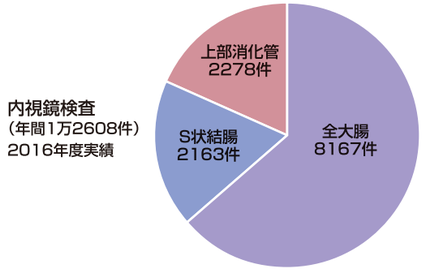


議論を重ね、構想10年の思いが結実した内視鏡室

スタッフが議論を重ねて理想を追求して実現に至った内視鏡室は、患者さんがストレスなく検査、治療を受けられ、スタッフの業務もスムーズにできる最先端の診療室です。

実績が証明する実力

内視鏡検査は年間1万2608件で、その内訳は全大腸8167件、S状結腸2163件、上部消化管2278件という実績です。大腸内視鏡検査の比率が高いのが当院の特徴です。



設立時から先駆的に肛門疾患の診療に取り組み患者さんに信頼される高度な医療を提供

大腸肛門をトータルに診るという開院以来のコンセプトを、常にリードしてきたのが私たち肛門科です。
新病院開院を機に、4つのセンターとの協力体制を強固にし、
さらなる発展を目指して努力を重ねてまいります。熊本に高野病院あり。そして、高野病院に肛門科あり。
この気概でスタッフ一同、患者さんに信頼される高度な医療を提供していきます。

肛門科　副院長
辻　順行

「肛門科」とは…

治療が困難な難治性の痔瘻から、炎症性腸疾患（IBD）に伴う肛門疾患まで
経験豊富なスタッフが対応し、さらに女性も受診しやすい、
全国有数の診療体制を誇っています。

難治性の病気に対応する実力

日本有数の肛門手術年間件数1805例（2015年）を誇り、深部痔瘻、フルニエ症候群、痔瘻がん、クローン病に合併する痔瘻、直腸脱ほか難治性肛門疾患の治療を積極的に行います。

女性も安心して受診できる診療体制

女性専用外来は、別の玄関から直接外来へ行けます。入院治療は病棟内で男女区分けし、より安心して受けることが可能です。働く女性にやさしい、週末の外来診療も実施しています。

年中無休の診療体制

仕事や家事などでなかなか通院できない方や緊急を要する方々のために、日曜診療だけではなく、祝日診療、さらには盆、年末年始も診療を行っています。

骨盤内にある臓器を診療する大腸肛門機能診療センターと泌尿器科は密接な関係です

大腸肛門の専門病院において、
泌尿器科は大腸肛門機能診療センターとの協力体制をとり、
新病院ではさらに、排泄障害の専門機関として、排泄障害全般に対処していきます。

泌尿器科　部長
高野　信一

排泄障害全般に対応

骨盤内にある膀胱や前立腺の近くには直腸があります。これらは同じ神経に支配されているため、排便障害を起こす人の3割は排尿障害も合併しています。泌尿器科はこの排泄障害に対処し、高齢者に起きやすい泌尿器の病気全般に対する診療を行っています。

医療は単科では成り立ちません

がん診療センター
大腸肛門機能診療センター
炎症性腸疾患（IBD）センター
内視鏡センター

肛門科
泌尿器科
心療内科

泌尿器科と心療内科は、各科が安心して診療できるよう横断的にサポートする心強い科です

“心のお通じ”をつけ、治療を円滑にし患者さんのQOLを向上させます

原因の分からない体の不調が起こり、
病院を受診してもなかなか診断がつかないような症状に対して、
それらの体の不調を、心の部分も含めて診る診療科が心療内科です。

心療内科　部長
小林 伸行

患者さんの心身を支える

当院に来るさまざまな病気を持つ方々は、心身ともに辛い状況に置かれています。
そんな患者さんが、安心して治療に専念し、日常生活を快適に送れるよう、ソーシャルワーカーとともに、各センターと連携しながら日々患者さんに寄り添う診療をしています。

1階の外来診療フロアは
ホスピタリティ溢れる空間として患者さんをお迎えします。
2階の患者支援センターは患者さんや
地域の皆様のつどうコミュニケーションスペースです。

正面玄関を入ってすぐ総合受付を設けております。専門スタッフがお悩みの症状を伺いご案内します。

フロアのご案内

6F 食堂／売店
グリーンホール

5F 南病棟（501−525）
北病棟（551−580）

4F 南病棟（501−525）
北病棟（551−580）

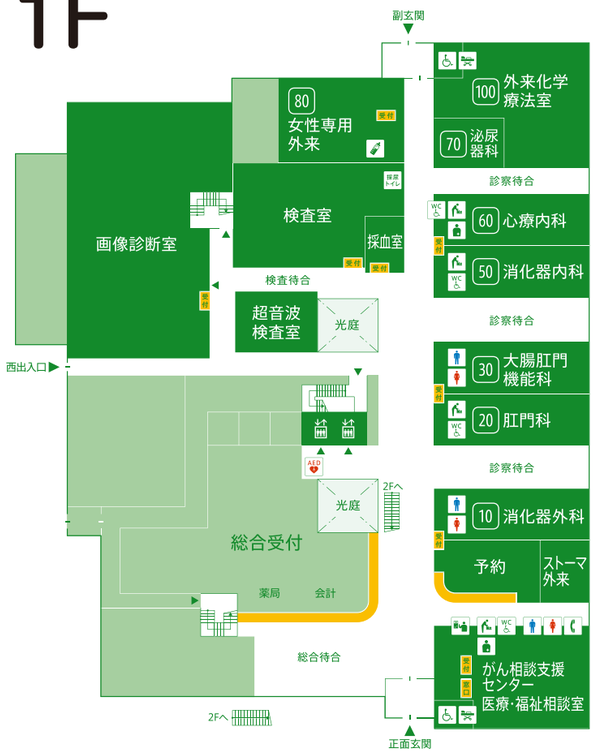
3F 手術室（家族控室）
医局
医療情報センター

2F 内視鏡センター
大腸肛門機能診療センター
（リハビリテーション室／直腸肛門機能検査・診察室）
総合健診センター
（人間ドック／がん検診）
患者支援センター

1F 総合受付／薬局／予約
10 〜 70 外来診察室
（がん診療センター／炎症性腸疾患（IBD）センター）
80 女性専用外来
100 外来化学療法室
採血室／検査室
画像診断室
超音波検査室
がん相談支援センター／医療・福祉相談室
（医療福祉課／訪問看護課／地域医療連携）

1F がん診療センター、IBD センター、肛門科など診療科スペース

1F

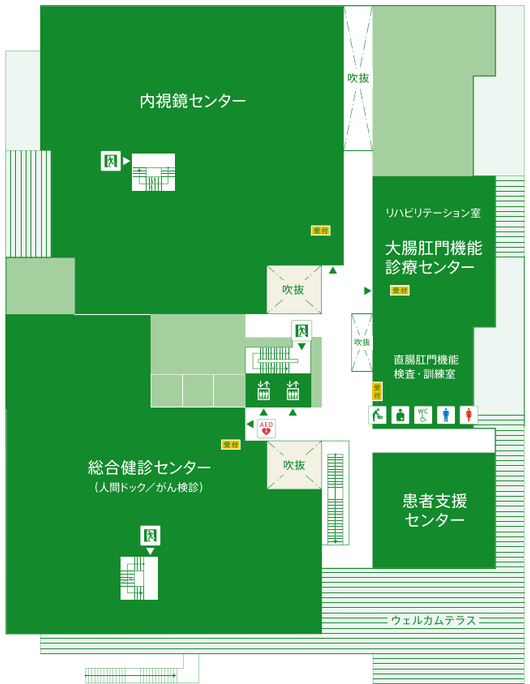


西日本随一の広さを誇る内視鏡センター

2F内視鏡センター、大腸肛門機能診療センター

外来のある1階は正面玄関から真っすぐの廊下にセンターや科が配置され見通しがよく、
吹き抜けや光庭があり明るく開放的な空間です。

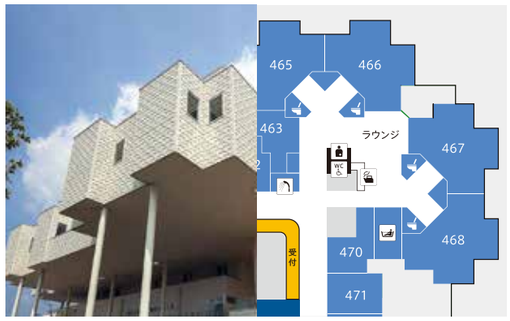
2F



患者支援センター

南側には屋根のあるウェルカムテラスがあり、天気を気にせず
地域イベントなどを行えます。

患者さんの視点を重視した療養環境



患者さんファーストを具現化

当院の建物は凸凹した形状になっています。これは多くの患者さんに外部の空気に直接触れてほしいという想いを形にしたものです。病棟階がこの病院の核であるということが外からみても一目でわかります。

個室的多床室

当院の病棟階は全てのベットに必ず窓が1つあります。全ての患者さんが太陽の日差しを浴び、外部の風を感じることができ、健康や安心感が促進されます。

緑あふれるガーデン

建物内には多くのテラスを設置し、多種多様な植物を植えています。患者さんに病室にいながら四季を感じていただくことができます。

正面玄関の庭園

地域の皆さんと接点を持ち、共に歩んでいきたい。正面玄関の庭園は、そんな想いを形にしています。お子さまの遊び場、井戸端会議の場所などとして、ご利用ください。

九州初の免震装置

「球面すべり支承」という、高品質の金属の球面を利用して地震のエネルギーを吸収する免震装置を設置。耐久性が高く、天然ゴム系の免震部材よりも長寿命です。平成28年熊本地震クラスの地震でも安全性を保つことができます。

眺望の良いレストラン

ひだまり食堂（入院患者）は熊本市内を一望できる最上階のレストラン。眺望を活かした大きな窓と南側に広がるテラスは入院中の食事に彩りを添えてくれます。また、パノラマカフェ（一般）は緑豊かな阿蘇の外輪山と青空のコントラストを眺めながらランチを楽しめます。

熊本県のがん診療連携拠点病院

当院は熊本県指定がん診療連携拠点病院として他院と連携を取りながら、がんの患者さんにとって最適な治療を提供しています。患者さんのご自宅近くで診療にあたるかかりつけの診療所や病院と緻密に連携して、がん医療を提供するシステムを取っています。

※当院は熊本県共通の「私のカルテ」を推進しています。

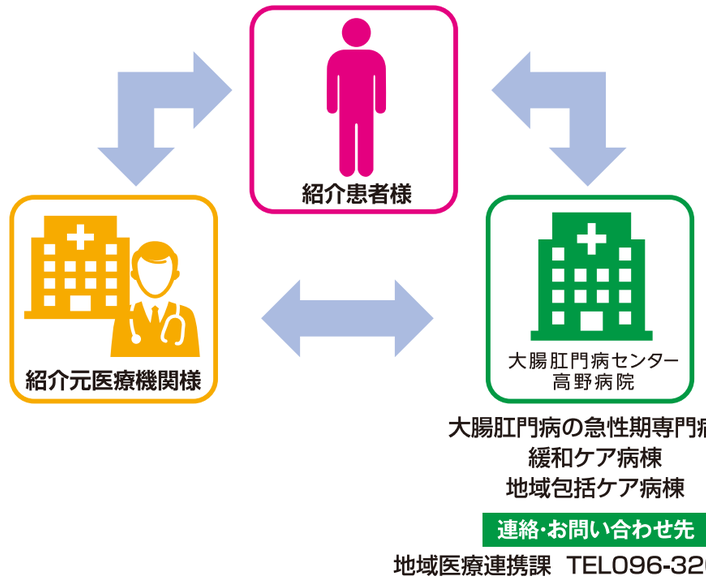
【都道府県がん診療連携拠点病院】
❶熊本大学医学部附属病院

【地域がん診療連携拠点病院】
❶熊本労災病院
❷人吉医療センター
❸熊本赤十字病院
❹熊本医療センター
❺済生会熊本病院
❻荒尾市民病院

【熊本県指定がん診療連携拠点病院】
❶ 熊本中央病院
❷ 熊本再春荘病院
❸ 熊本総合病院
❹ 水俣市立総合医療センター
❺ 天草地域医療センター
❻ 天草中央総合病院
❼ 熊本地域医療センター
❽ くまもと森都総合病院
❾ 大腸肛門病センター 高野病院
❿ 山鹿市民医療センター
⓫ 熊本南病院

地域の先生方と連携しています

がん以外の疾患も紹介元の医療機関様から診療情報提供を提供していただき、診療後は結果を紹介元医療機関様に報告します。また、術後の患者さんの在宅復帰のための地域包括ケア病棟を46床設け、他院後も訪問看護、ストーマ管理を行っています。



大腸肛門病の急性期専門病院
緩和ケア病棟
地域包括ケア病棟

連絡・お問い合わせ先
地域医療連携課　TEL096-320-6520

● がん相談支援センター

がんに関するご本人やご家族のご相談をお受けしています。

● セカンドオピニオン

治療中の医師（医療機関）から情報提供を受けられる方を対象としてセカンドオピニオンを行っています。

● がん予防講演会

昭和57年の開院以来、大腸がんの撲滅に取り組み、啓発運動の一環として予防講演会を開催しています。